

1. 感謝 Kevin McLoughlin、童文娥、板倉聖哲、黃立芸所提供的資訊。部分訊息轉貼自 Nixi Cura 維護之 Arts of China Consortium 網站。
2. 目前原則上固定於每周五寄發，包括展覽、演講、會議議程與徵文、網路資源、徵人啓事等訊息，歡迎大家多多貢獻資訊。
3. 若有與藝術史或文化史相關的研究、演講、展覽、或會議之訊息，不論來自何地，都歡迎提供，我會將之轉給大家。雖然未必能與會，分散於天涯海角的我們卻可對各地情況有所瞭解。
4. 最新訊息以紅色標示，內容包括中(Big5)、英、日文(IME)碼。
5. 本期更新: **展覽**。
6. 如有其他同好對此電子報有興趣，請告知電子郵件地址，我將加入寄送名單中。若不願收到，也請告知，以方便作業。

#### 展覽：

##### 台灣

1. 國立故宮博物院
2. 台北十三行博物館
3. **台灣歷史博物館**
4. **國立台灣博物館**

##### 亞洲

1. 香港藝術館
2. 北京故宮博物院
3. 中國國家博物館
4. **廣東省博物館**
5. 東京國立博物館
6. 京都國立博物館
7. 九州國立博物館
8. 觀峰館
9. 泉屋博古館
10. 黒川古文化研究所
11. 大和文華館
12. 澄懷堂美術館
13. 和泉市久保惣記念美術館

#### 14. 大阪市立東洋陶磁美術館

##### 歐美

1. Freer Gallery of Art
2. Metropolitan Museum of Art, NYC
3. Asian Art Museum, San Francisco
4. Peabody Essex Museum
5. The British Museum
6. Musée Guimet
7. National Museum, Cardiff, UK

##### 台灣

1. 故宮博物院展覽：

<http://www.npm.gov.tw/exhibition/object.htm>

- 1) 文藝紹興－南宋藝術與文化特展

展期：2010/10/08 ~ 2010/12/26

(二階段間之換畫是 11 月 23 日晚上)

陳列室：103, 104, 105, 107, 202, 204, 206, 208, 210, 212

展件清單請見<http://www.npm.gov.tw/exh99/southernsong/index.html>

南宋為期一百五十三年（1127－1279），為中國文化發展中極為重要的時期。南宋朝廷一方面宣示承繼大統，重振禮樂規章；一方面振興江南文風，重視儒學教育，融合釋道，確立以朱熹為代表的經學道統；此外，獎勵各種經濟發展，以至於農耕進步，商業繁榮，手工業興盛，海外貿易蓬勃。經濟富庶帶動文藝創作之風，詩文詞章，或尚以文載道，或追求閒逸自然；風雅之士喜好文物鑑藏，講究生活品味。在書畫與工藝製作方面，隨著皇室的倡導與地理環境、氣候條件與人文風氣的轉變，無論在內容與形式上，都創造出獨特而有高度藝術性的作品，對後世藝術發展影響深遠。

南宋時期流傳的文物，既是富於審美價值的藝術品，也是說明南宋文化的最佳實證。為求呈現南宋藝術與文化全貌，本次特展展品除包含本院所藏南宋大量珍貴文物，書畫如帝后書法、宮廷藝術家創作、士人書畫、重臣名賢及道釋書翰；器物如官窯瓷器、端硯、玉雕、銅鏡等；文獻如宋版圖書等文物，多達 300 餘件外，亦向日本東京國立博物館、京都國立博物館，中國上海博物館、遼寧省博物館、浙江省博物館、福建博物院等十餘個博物館商借部分南宋文物，全方位呈現南宋在文化與藝術上的創新作為與成就。

展覽規劃於 2010 年 10 月 8 日至 12 月 26 日，結合書畫、器物與善本圖書，在本院一、二樓的十個陳列室展出。分為「文化振興」、「藝術創新」、「生活美學」和「傳播與融合」四個單元，以說明南宋宣示承繼大統的理念、創新的藝術品味、江南地區的審美意念，以及書畫、工藝、圖書等，在不同地區、不同文化圈之間的流通、

傳播與融合等各個面向，以展現南宋藝術的特色與豐富的文化內涵。

借展單位：台北縣立十三行博物館、連江縣政府、澎湖縣政府文化局、上海博物館、浙江省博物館、杭州市歷史博物館、浙江省金華市博物館、浙江省湖州市博物館、浙江省諸暨市博物館、浙江省衢州市博物館、福建博物院、福建省邵武市博物館、福建省福州市博物館、遼寧省博物館、東京國立博物館、京都國立博物館

## 2) 山水合璧—黃公望與富春山居圖特展

展期：2011年6月至9月

故宮珍藏的國寶級畫作〈富春山居圖〉與原屬一卷今藏於浙江博物館的〈剩山圖〉，將同時展出，重現元代黃公望曠世傑作的原貌。「山水合璧—黃公望與富春山居圖特展」展覽內容規劃為「黃公望的繪畫淵源」、「黃公望書畫珍蹟」包含〈富春山居圖〉與〈剩山圖〉、「黃公望之友」、「富春山居圖臨仿本」及「黃公望的影響」等單元，以呈現〈富春山居圖〉在中國文人畫傳統中承先啓後的藝術成就。因此展品除了國立故宮博物院的〈富春山居圖〉、黃公望其他畫作與其師承與影響之畫作，以及浙江博物館的〈剩山圖〉之外，尚借自北京故宮、中國國家博物館、上海博物館、南京博物院及雲南省博物館等博物館書畫作品，以呈現黃公望的書畫淵源、存世真跡與後世影響。

## 2. 台北十三行博物館

訊塘埔特展

展期：2010年9月21日～2011年02月27日

陳列室：第一特展室

透過展示呈現北臺灣新石器時代早、中、晚期之間的文化承續關係，以及八里地區過去環境到現在間的變遷，認識訊塘埔遺址的重要性，期能提醒政府及社會大眾在各地區未來相關區域開發著手前，能更審慎地考量文化資產的價值和意義。

## 3. 國立歷史博物館

盛世皇朝祕寶—法門寺地宮與大唐文物特展

展期：2010年10月29日～2011年01月09日

陳列室：一樓101、102、103展廳

唐代是歷史上的一座豐碑，多元開放的態度，讓國家文化有了多面向的發展。當時以長安城為都，東西接連了歐亞大陸的人文景觀。法門寺供奉佛指舍利，成為此時重要的皇家寺廟，法門寺地宮除了瘞藏佛骨舍利外，也保存著各類文物，對於瞭解唐代的政治、經濟、文化、宗教、科技、藝術、中外交流等具有極重要的學術價值。法門寺地宮承載著文藝的輝煌，蘊涵著文化的深邃，涵蓋了文明的博大。讓我們可以看見唐人對生活的講究，以及宗教的崇敬與對後代的影響。佛像供養物，反映奉佛的虔誠、精巧發展的物質文明和皇室的生活；金銀器皿代表著藝術與生活的高度發展；玻璃器物代表著中西交流的盛況，此外墓室壁畫、陶器、銅鏡等等文物也都濃縮了三百餘年的政治、經濟、宗教、與文化，將引領我們穿過時光隧道，探索法門寺的幽冥地

宮，讓觀者親眼觀看盛世的精采工藝，重拾大唐的華彩樂章，並進一步瞭解了宮廷機構設置、社會制度特點、貴族生活、喪葬禮儀制度、對外貿易交流、繪畫藝術造詣以及服飾潮流、化妝時尚等，因為這些出土文物，為瞭解唐代社會、瞭解唐人生活的想望，開啓一個視窗。

#### 4. 國立臺灣博物館

劍舞楚天—越王勾踐劍暨楚國出土文物展

展期：2010/11/20 ~ 2011/2/13

[http://www.ntm.gov.tw/tw/exhibition/exhibition\\_d.aspx?d=80&no=25](http://www.ntm.gov.tw/tw/exhibition/exhibition_d.aspx?d=80&no=25)

湖北省是歷史上楚國的中心地區，近五十年來湖北省博物館等單位配合工程建設陸續發掘了一些重要的楚墓，出土了大批極具特色的楚文物。湖北江陵望山一號楚墓和湖北棗陽九連墩一、二號楚墓就是其中的典型代表。1965年因興修水利，文物考古工作者發掘了位於江陵紀南城西北約7公里處的望山一號楚墓，出土文物400餘件。墓主人是楚悼王之後、楚國大夫召固，下葬年代約在戰國中期。墓中出土了聞名遐邇的越王勾踐劍。

代表戰國時期楚文化的江陵望山一號楚墓與九連墩古墓群的出土精品，在國立臺灣博物館、湖北省博物館、與財團法人鴻禧藝術文教基金會合作下，首度在台灣現身。「劍舞楚天—越王勾踐劍暨楚國出土文物展」展出舉世聞名的越王勾踐劍和九連墩楚墓出土的118件（套）文物，讓臺灣的觀眾也能分享楚文化的瑰偉壯麗。

### 亞洲

#### 1. 香港藝術館

1) 博古存珍：敏求精舍金禧紀念展 The Grandeur of Chinese Art Treasures: Min Chiu Society Golden Jubilee Exhibition

展期：2010年9月25日至2011年1月2日

[http://www.lcsd.gov.hk/CE/Museum/Arts/english/exhibitions/exhibitions01\\_jul10\\_01.html](http://www.lcsd.gov.hk/CE/Museum/Arts/english/exhibitions/exhibitions01_jul10_01.html)

2) 明月清風—至樂樓藏明末清初書畫選

展期：2010年12月24日—2011年05月01日

中國書畫展覽廳 (四樓)

「明月清風—至樂樓藏明末清初書畫選」展出約80項「至樂樓」藏明末清初書畫精品。至樂樓是香港其中一個重要的私人書畫收藏，主人何耀光先生(1907–2006)自四、五十年代開始收藏歷代書畫名蹟，其明末清初藏品歷來備受海內外學界藝壇重視。是次展覽便是以明、清易代之際的書畫作品為主軸，展出包括黃道周(1585–1646)、藍瑛(1586–約1664)、蕭雲從(1596–1673)、陳子壯(1597–1647)、鄭露(1604–1650)、方以智(1611–1671)、「四僧」(即弘仁(1610–1664)、髡殘(1612–1673)、石濤(1630–1707)、朱耷(1642–1707))、龔賢(1618–1689)及查士標(1615–1698)一眾名家的繪畫與法書作品。這批文人藝士生活在明、清易代之際，

心懷亡國之痛、故國之思，以明朝遺民自居。面臨朝代更迭所帶來的衝擊，他們或致力抗清鬥爭，或歸隱不仕，堅守氣節，或遁入空門，潛心繪事。他們以獨特的畫風示世，在社會驟變下將其無可奈何的心緒、遠離塵世的思想、傲世清高的情懷都寄寓在筆下，展現了明清之際的特殊歷史時空下，發展出各具面貌的繪畫風格。

## 2. 北京故宮博物院

明永樂宣德文物特展

展期：2010-9-26～2010-12-31

陳列室：午門展廳

## 3. 中國國家博物館

潘天壽藝術大展

<http://114.255.205.160/tabid/107/InfoID/987/frtid/40/Default.aspx>

## 4. 廣東省博物館

考古中華——中國社會科學院考古研究所 60 年成果展

展期：2010 年 11 月 8 日—2011 年 2 月 10 日

陳列室：臨時展廳一、二

展覽依託考古學研究的相關重大課題而展開，知識內涵豐富，發掘成果豐碩。展覽展出文物 430 件/套，均為中國社會科學院考古研究所 60 年來發掘收穫，精品紛呈，包括青銅器、玉器、陶器、瓷器、金銀器等，絕大部分為首次向社會公開展出。展覽多方位地揭示了中華文明的起源與發展過程。此外，豐富的照片、圖表、書籍和多媒體等輔助展品，既增加展覽的趣味性，也讓觀眾能盡可能全面、準確地瞭解文物製作和使用的社會背景，展現製作和使用這些文物的人及其社會狀況。

## 5. 東京國立博物館

### 1) 仏像の道—インドから日本へ

展期：2010 年 3 月 24 日(三) - 2011 年 4 月 3 日(日)

仏像の誕生とほぼ時を同じくして、仏教は中央アジアを経由して中国に伝えられました。中国では、南北朝時代になると、国家の保護の下で仏教が繁栄し、5 世紀に入ると大規模な石窟(せつくつ)寺院なども造営されるようになり、おびただしい数の仏像が作られました。仏像の様式がインド風から中国風へと変化するのはいちよこの頃で、外来の仏教を自分たちのものにしていく様子がわかります。

4 世紀の終わりに、仏教は中国から朝鮮半島へ伝わりました。やはり王室が仏教を保護し、仏像は中国南北朝時代(420～589)のスタイルを継承しながら、朝鮮半島に独自の流行もうみ出しました。6 世紀には、朝鮮半島の百済からわが国へ仏教が伝来しました。日本では 7 世紀に入ると造寺造仏活動が本格化します。伽藍(がらん)配置や仏像の様式には、朝鮮半島や中国との関連がうかがわれます。中国では 618 年に唐王朝が

成立し、都の長安では仏教が大いに栄え、わが国の仏教文化にも大きな影響を及ぼしました。

## 2) 特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」

平成館 2011年1月18日(火)～3月6日(日)

文化財保護法制定 60周年記念

[http://www.tnm.go.jp/jp/servlet/Con?pageId=B01&processId=01&event\\_id=7966](http://www.tnm.go.jp/jp/servlet/Con?pageId=B01&processId=01&event_id=7966)

2009年12月、日本画家の平山郁夫氏が永遠の眠りにつかれました。平山氏は、創作活動と表裏一体をなすものとして、世界各地で危機に瀕している、かけがえのない文化遺産の保護に尽力しました。そして、文化遺産を保護していくためには信仰心と重なる平和への強い祈りが重要であると考え、インドから中国を経て日本に伝わった仏教の伝来過程にも注目し、関連遺跡をくまなく旅しています。

この展覧会では、平山郁夫氏の文化財保護に関わる偉大な活動を顕彰し、その業績をとおして文化財保護の重要性や課題などを改めて広く知っていただくとするものです。インド・パキスタンをはじめ、アフガニスタン、中国、カンボジアなど、平山氏がことに関心を寄せた仏教伝来の道に沿った仏像や壁画の数々とともに、文化財保護活動の集大成として制作し、薬師寺玄奘三蔵院(やくしじげんじょうさんぞういん)に奉納された畢生の大作・大唐西域壁画を全点展示いたします。

## 3) 中国書画精華—海を渡ってきた名品たち

展期:前期:2010年10月19日(火)～2010年11月14日(日)

後期:2010年11月16日(火)～2010年12月12日(日)

陳列室:特別1室

平安時代にわが国に舶載された唐時代の写本の中には、反故紙として裏面が再利用されたものがあります。今日改めて本紙を見ると、中国ではすでに失われた貴重な典籍であるために、国宝に指定された例もあります。また鎌倉時代以降、禅宗とともに数多く舶載された宋元の絵画は、書院や茶室において、日本人の趣味にもとづいて鑑賞され親しまれてきました。その過程で、本来は冊頁(さっけつ)だったものが掛軸の形として日本人の鑑賞に合うように整えられ、大切に伝わってきたものもあります。それらの中には、本場中国ではすでに稀少となっている作例も少なくありません。

明治以降には、中国本来の文人趣味を理想とする知識人により、中国に伝世する歴代の書画の精品が収集されました。現在に至るまで日本は、世界でも最も豊かな中国書画コレクションを持つ国の一つとなっています。

## 6. 京都国立博物館

### 1) 上野コレクション寄贈 50周年記念

中国の書画—深遠なる墨美の世界—(仮称)

展期: 2011/1/8～2011/2/20 H 23.1.8(土)～2.20(日)

平成22年は、当館の中国書画の中核をなす上野コレクションのご寄贈から、丸50年という節目にあたります。作品の中には、現存十七帖の中でも屈指の名帖として名高

い「宋拓十七帖」も含まれています。これらの優品とともに関連する作品も合わせて展示します。どうぞ、この機会に幽玄な中国の書画の世界をご堪能ください。

## 2)文化財保護法 60 年記念事業

高僧と袈裟(けさ)—ころもを伝え ころもを繋(つな)ぐ—

展期:平成 22 年 10 月 9 日(土)~11 月 23 日(火・祝)

展場:特別展示館

僧侶が身につける衣服として、目にしている袈裟。日本の寺院では、空海・最澄といった平安時代の高僧や、無準師範・夢窓疎石といった高名な禅僧が着用したとされる袈裟が秘蔵されてきました。これらを一堂に会し、袈裟を通して見えてくる日本の仏教と染織の歴史を辿る、初めての試みです。

詳細はこちら→

<http://www.kyohaku.go.jp/jp/tenji/korekara/pdf/201010kesa.pdf>

## 3)同時開催 [特集陳列]

生誕 125 年記念 篆刻家(てんこくか) 園田湖城(そのだこじょう)

平成 23 年 1 月 8 日(土)~2 月 20 日(日)

## 4)中国近代絵画展

展期:平成 24 年 1 月至 3 月

## 7.九州国立博物館

誕生！中国文明

展期:平成22年10月5日(火)~11月28日(日)

## 8. 観峰館

「生誕百年・原田観峰の愛した中国書画展」春、夏、秋

展期:平成 23 年 7 月至 8 月

## 9. 泉屋博古館

中国絵画展

展期:平成 23 年 9 月至 12 月

## 10. 黒川古文化研究所

### 1)第105回展覧 中国書画名品展

展期:平成 23 年4月16日(土)~5月15日(日)

重要文化財・伝董源筆「寒林重汀図」をはじめとした所蔵品、寄託品のなかから、中国書蹟、絵画の名品を展示する予定をしております。

### 2)花鳥画展

展期:平成 23 年 10 月中至 11 月中

## 11. 大和文華館

### 1) 開館 50 周年記念名品展Ⅲ 大和文華館の中国・朝鮮美術

展期: 2011 年 2/19(土)～3/27(日)

日本美術は東アジア世界との長い交流の中から生み出されてきました。新収品「螺鈿菊唐草文小箱」をはじめ、大和文華館所蔵の国宝 1 件、重要文化財 4 件、重要美術品 3 件を含む中国・朝鮮の名画や工芸の名品を展示します。

### 2) 中国美術コレクション展

展期: 平成 23 年 11 月底至 12 月底

## 12. 澄懷堂美術館

### 1) 中国書画展

展期: 平成 23 年 3 月上旬至 6 月

### 2) 中国書画展

展期: 平成 23 年 9 月至 12 月

### 3) 中国美術コレクション展

展期: 平成 23 年 11 月底至 12 月底

## 13. 和泉市久保惣記念美術館

林宗毅氏寄贈中国近代書画

展期: 平成 23 年 6 月至 7 月

## 14. 大阪市立東洋陶磁美術館

国際交流企画展「幻の名窯 南宋修内司官窯－杭州老虎洞窯址発掘成果展」

会期: 平成 22 年 8 月 7 日(土)～11 月 28 日(日)

開館時間: 午前 9 時 30 分～午後 5 時(入館は 4 時 30 分まで)

休館日: 月曜日(9/20、10/11 は開館)、9/21(火)、10/12(火)

概要:

本展は杭州市考古所により発掘され、2001 年に中国の十大考古発見の一つに選ばれた杭州市老虎洞磁窯址の発掘成果を日本で初めて紹介するものです。

南宋時代(1127～1279)、都であった臨安(現在の浙江省杭州)には宮廷専用の製品を生産する窯、いわゆる「南宋官窯(なんそうかんよう)」が設置されました。この南宋官窯には、修内司(しゅうないし)官窯と郊壇下(こうだんか)官窯があったことが文献から知られており、郊壇下官窯については杭州烏龜山(うきざん)山麓にその窯址があることが発掘により明らかになりました。しかし、修内司官窯の窯址についてはこれまで大きな謎となっていました。近年、南宋の宮城にほど近いかつての修内司営のあった場所に老虎洞(ろうこどう)窯址が発見され、大量の青磁片とともに「修内司」銘資料も出土したことから、この老虎洞窯址が「修内司官窯」ではないかと現在注目されています。南宋官窯の青磁は、薄く黒い胎土と何層



にも厚く掛け

られた釉薬により、「粉青(ふんせい)」と呼ばれる独特の釉色や「貫入(かんにゅう)」と呼ばれる釉のひび割れを生み出し、中国の青磁の最高峰の一つとなっています。

本展では日本初公開の杭州老虎洞窯址の出土資料約 50 点により、幻の名窯、南宋修内司官窯の謎とその魅力に迫ります。

会場: 大阪市立東洋陶磁美術館

大阪市北区中之島 1-1-26

・京阪中之島線「なにわ橋」駅下車すぐ

・地下鉄御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」、

地下鉄堺筋線・京阪本線「北浜」各駅から約 400m

主催: 大阪市立東洋陶磁美術館、杭州歴史博物館、読売新聞大阪本社

料金: 一般 600 円(480 円) / 高校・大学生 360 円(300 円)

展示点数: 約 50 点

同時開催:

特集展「高田コレクション ペルシアの陶器—オリエントの色彩とデザイン」

平常展

安宅コレクション中国・韓国陶磁、李秉昌(イ ビョンチャン)コレクション韓国陶磁、日本陶磁、

沖正一郎コレクション鼻煙壺

問い合わせ:

大阪市立東洋陶磁美術館

TEL.06-6223-0055 FAX.06-6223-0057

## 歐美

### 1. Freer Gallery of Art

#### 1) Masterpieces of Chinese Painting

June 12–November 28, 2010

#### 2) Chinamania: Whistler and the Victorian Craze for Blue-and-White

August 7, 2010–August 7, 2011

Freer Gallery of Art

Blue-and-white Chinese porcelain became a hot item in London in the 1870s, a craze the British press mockingly dubbed "Chinamania." James McNeill Whistler, an early collector of Chinese porcelain, helped stimulate this fad by depicting such wares in his paintings.

The Chinamania exhibition at the Freer explores Chinese porcelain in Whistler's England, where it was first valued as aesthetic inspiration but soon proliferated as a commodity.

Featured are twenty-three works of art: blue-and-white porcelain objects from the Peacock Room; eight wash drawings of Kangxi porcelain that Whistler produced for a collector's catalogue; and paintings, pastels, and etchings inspired by the artist's interest in porcelain.

#### 3) Echoes of the Past: The Buddhist Cave Temples of Xiangtangshan

February 26–July 31, 2011

Arthur M. Sackler Gallery

Majestic sixth-century Chinese Buddhist sculpture is combined with 3D imaging technology in this exploration of one of the most important groups of Buddhist devotional sites in early medieval China. Carved into the mountains of northern China, the Buddhist cave temples of Xiangtangshan (響堂山, pronounced "shahng-tahng-shahn") were the crowning cultural achievement of the sixth-century Northern Qi dynasty (550-77 CE). Once home to a magnificent array of sculptures—monumental Buddhas, divine attendant figures, and crouching monsters framed by floral motifs—the limestone caves were severely damaged in the first half of the twentieth century, when their contents were chiseled away and offered for sale on the international art market.

2. Metropolitan Museum of Art, NYC

1) From Xanadu to Dadu: The World of Khubilai Khan

September 28, 2010–January 2, 2011

The Tisch Galleries, 2nd floor

This exhibition will cover the period from 1215, the year of Khubilai's birth, to 1368, the year of the fall of the Yuan dynasty in China founded by Khubilai Khan, and will feature every art form, including paintings, sculpture, gold and silver, textiles, ceramics, lacquer, and other decorative arts, religious and secular. The exhibition will highlight new art forms and styles generated in China as a result of the unification of China under the Yuan dynasty and the massive influx of craftsmen from all over the vast Mongol empire—with reverberations in Italian art of the fourteenth century. The exhibition is made possible in part by the E. Rhodes and Leona B. Carpenter Foundation, The Dillon Fund, and the National Endowment for the Arts.

2) The Yuan Revolution: Art and Dynastic Change

August 21, 2010–January 9, 2011

Galleries for Chinese Painting and Calligraphy, 2nd floor, north wing

Organized to complement the Museum's major loan exhibition *The World of Khubilai Khan: Chinese Art in the Yuan Dynasty*, this installation in the Museum's permanent galleries for Chinese painting and calligraphy traces the momentous stylistic transformation in painting and calligraphy that began under Mongol rule and culminated in the literati traditions of the early Ming. The exhibit will showcase some seventy Yuan and early Ming works of art from New York–area private and public collections.

3) Celebration: The Birthday in Chinese Art

February 27, 2010–November 28, 2010

Florence and Herbert Irving Galleries for Chinese Decorative Arts, 3rd floor

4) The Emperor's Private Paradise: Treasures from the Forbidden City

February 1, 2011–May 1, 2011

Galleries for Chinese Painting and Calligraphy, 2nd floor, north wing

This loan exhibition organized by the Peabody Essex Museum presents some ninety paintings, decorative works, architectural elements, and religious works created for an elaborate two-acre private retreat built deep within the Forbidden City in 1771 as the retirement residence of one of China's most extravagant monarchs—the Qianlong Emperor (r. 1736–95)—who presided over China's last dynasty, the Qing, at the zenith of its power and wealth. No expense was spared to make this complex as sumptuous and comfortable as possible. The costliest materials, including rare woods, semiprecious stones, cloisonné, gilt bronze, porcelain, and lacquer were employed to ornament every surface of this world. In the end the emperor declined to retire here and the space remained a virtual time capsule relatively untouched since imperial times.

3. The Asian Art Museum of San Francisco

Collectors' Choice/Collectors' Voice

October 15, 2010–March 13, 2011

Tateuchi Thematic Gallery

4. Peabody Essex Museum

The Emperor's Private Paradise: Treasures from the Forbidden City

14 September 2010 - 9 January 2011

(in partnership with the Palace Museum, Beijing)

Located in the: Special Exhibition Galleries

Never before seen by the public, the contents of an Emperor's private retreat deep within the Forbidden City will be revealed for the first time at the Peabody Essex Museum.

An 18th-century compound in a hidden quadrant of the immense imperial complex, the Qianlong Garden (also known as the Tranquility and Longevity Palace Garden), is part of a decade-long, multimillion-dollar conservation initiative undertaken by the World Monuments Fund in partnership with the Palace Museum, Beijing.

Ninety objects of ceremony and leisure — murals, paintings, wall coverings, furniture, architectural elements, jades and cloisonné — unveil the private realm of the Qianlong Emperor (r.1736-1796), one of history's most influential figures. In his time, he was among the richest, most powerful men in the world. A connoisseur, scholar and devout Buddhist, he created a luxurious garden compound to serve throughout his retirement as a secluded place of contemplation, repose and entertainment.

5. The British Museum

Images and sacred texts: Buddhism across Asia

14 October 2010– 3 April 2011

Room 9

The exhibition features depictions of the ‘three gems’ from across Asia. The ‘three gems’ consist of the Buddha himself, his teachings (dharma), and the Buddhist community (sangha). Despite regional variations, the ‘three gems’ show remarkable similarities, sometimes across hundreds of years.

Objects featured in the exhibition include exquisite gold sculptures and paintings of the Buddha, beautiful Buddhist texts on palm leaf and paper, and a selection of images of Buddhist monks.

The objects come from across the whole of Asia, including India, China, Mongolia, Tibet, Thailand, Cambodia, Korea and Japan. The earliest objects are from the 1st–2nd century AD, and the latest date to the 20th century.

## 6. Musée Guimet

Kazakhstan - Hommes, bêtes et dieux de la steppe

Du 29 octobre 2010 au 31 janvier 2011

Galleries du Panthéon bouddhique du musée Guimet

19 avenue d'Iéna – 75116 Paris

*Exposition organisée par le musée des arts asiatiques Guimet en étroite collaboration avec les responsables du musée central d'Almaty et des chercheurs français, grâce au mécénat de AREVA, TOTAL et ASTRIUM. Pour la première fois en France, est présentée une exposition d'introduction à l'histoire et au patrimoine du Kazakhstan, pays au cœur de l'Asie centrale ...*

## 7. National Museum Cardiff, UK

From Steep Hillside: Ancient Rock Carvings from Dazu, China

26 Jan–3 Apr

[http://www.museumwales.ac.uk/en/whatson/?event\\_id=4672](http://www.museumwales.ac.uk/en/whatson/?event_id=4672)

The steep hillsides of the Dazu world heritage site near Chongqing contain an exceptional series of rock carvings dating from the 9th to the 13th century.

The carvings comprise some 50,000 figures in total. They are remarkable for their aesthetic quality, rich diversity of subject matter, both secular and religious, and the light that they shed on everyday life in China during this period. This exhibition provides a unique opportunity to see some of these sculptures, which have never before been seen outside China. From Steep Hillside: Ancient Rock Carvings from Dazu, China contains superb examples that have become detached from their original setting, along with accurate replicas of some of the most important sculptures still in situ and dramatic large-scale images to give some idea of what it is like to visit these spectacular places. Dazu is a real treasure house of Chinese art history and an important expression of the ideas of Buddhism, Daoism and Confucianism, as well as a

fascinating insight into Chinese daily life. National Museum Cardiff is proud to be the only venue for this important exhibition before it returns to Dazu.

## 研討會

### 1. Art and Archaeology of the Yuan Dynasty

Workshop for Scholars

Saturday, December 4, 2010

The Metropolitan Museum of Art, New York

Bonnie J. Sacerdote Lecture Hall, Uris Center for Education

The workshop has been organized by the Department of Asian Art in conjunction with the exhibition *The World of Kubilai Khan: Chinese Art in the Yuan Dynasty* (September 28, 2010–January 2, 2011)

Please enter the Museum at the ground floor entrance to the Uris Center for Education, 81st Street and Fifth Avenue. Proceed to the Workshop Registration Desk in the Carson Family Hall, after the coat check area. The Museum opens at 9:30 a.m.

#### **9:50–12:30 Morning Session**

9:50–10:00 Welcome Remarks

James Watt, Brook Russell Astor Chairman, Department of Asian Art

10:00–10:20 *Dadu: The Grand Capital of the Yuan Dynasty*

Xu Pingfang, Secretary General Emeritus, Chinese Association of Archaeology, Beijing

10:25–10:45 *Shangdu: The Upper Capital of the Yuan Dynasty*

Wei Jian, Professor, People's University, Beijing

10:50–11:10 *River Village on an Autumn Evening*, a handscroll by Li Shixing (1283–1328)

Ho Chuan-hsing, Curator, Department of Painting and Calligraphy, National Palace Museum, Taipei

11:15–11:35 *Yuan Calligraphy in the Palace Museum Collection*

Fu Hongzhan, Curator, Department of Painting and Calligraphy, Palace Museum, Beijing

11:40–12:00 *Yuan Painting in the Shanghai Museum Collection*

Ling Lizhong, Curator, Department of Painting and Calligraphy, Shanghai Museum

12:05–12:25 *Yuan Painting in the Palace Museum*

Yu Hui, Director, Research Center, Palace Museum, Beijing

12:30 Lunch

#### **2:00–5:30 Afternoon Session**

2:00–2:20 *Archaeology of the Yuan Dynasty in Shanxi in the 21<sup>st</sup> Century*

Qu Chuanfu, Director, Research Center of Archaeology, Shanxi Museum, Taiyuan

2:25–2:45 *Archaeology of the Yuan Dynasty in Anhui*

Hu Xinmin, Deputy Director, Anhui Provincial Museum, Hefei

- 2:50–3:10 *The Jizhou Kiln in the Song and Yuan Periods*  
Peng Yingun, Director, Jiangxi Provincial Museum, Nanchang
- 3:15–3:35 *Maritime Trade and Cultural Exchange in the Yuan Dynasty*  
Ding Yuling, Director, Quanzhou Maritime Museum, Quanzhou, Fujian
- 3:40–4:00 *Recent Archaeological Discoveries of the Yuan Dynasty in Inner Mongolia*  
Fu Ning, Deputy Director, Inner Mongolia Museum, Hohhot
- 4:05–4:25 *Excavations at the Jining Circuit of the Yuan Dynasty*  
Chen Yongzhi, Director, Inner Mongolia Institute of Archaeology, Hohhot
- 4:30–4:50 *Decorative Arts of the Yuan Dynasty*  
Tsai Mei-fen, Curator, Department of Decorative Arts, National Palace Museum, Taipei
- 5:00–5:30 Discussion  
Moderator: Jason Sun, Curator, Department of Asian Art

Program subject to change

**Note:** The exhibition *The World of Kubilai Khan: Chinese Art in the Yuan Dynasty* (The Tisch Galleries, 2nd floor) is open for viewing until 9:00 p.m. on Saturday.

#### 座談會

##### 1. Painting and Culture in Ming China

Craig Clunas (University of Oxford)

University of Oxford

In Michaelmas term, Professor Craig Clunas will be giving a series of weekly lectures on "Painting and Culture in Ming China." These lectures are open to the public and will take place every Thursday (week 1-8) from 11am-12pm.

25 November "Painting and Belief"

2 December "Painting and Text"

#### 演講

##### 1. 台大藝術研究所

主講人：巫鴻教授（美國芝加哥大學教授兼Smart Museum of Art顧問館長）

題目：寶山遼墓：建築，畫像程式，作者，主體性

（Baoshan Tombs: Architecture, Pictorial Program, Authorship, Subjectivity）

時間：2010年12月3日（週五）下午 16:00-18:00

地點：臺大校總區文學院文 20 教室

##### 2. 「文藝紹興—南宋藝術與文化特展」專題演講

舉辦地點：故宮博物院行政大樓文會堂演講廳

「文藝紹興—南宋藝術與文化」特展專題演講場次

專題演講系列：特展介紹

◆ 時間：12/7(週二)14:30-16:30

講師：鄧淑蘋 國立故宮博物院器物處研究員

講題：十二、十三世紀中國玉器文化的發展

3. New Faces of Nature: Colossal Buddhas of Sichuan

Sonya Lee (University of Southern California)

Princeton University

Princeton, NJ

13 April 2011